

I P M実践指標モデル（にんじん）

分類	管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄			
				昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
予防	病虫害・環境草の発生しにくく	ほ場内、周辺の除草（必）	病虫害の発生源となるほ場内やほ場周辺の雑草を除去する。	1			
		収穫残さの処理（必）	収穫後の残さは病虫害の発生源となるので、速やかにほ場外に持ち出して適切に処分する。	1			
		施肥管理	土壌診断を行い、適切な施肥を行う。	1			
		排水対策	畑に溝を切るなど、降雨時に水がたまらないように排水対策を実施する。	1			
判断	タイミングの判断	気象情報の把握	気象情報を把握し、防除の要否を判断する。また、適期防除に心掛ける。	1			
		病虫害の観察	ほ場にはルーベを持参し、病虫害や天敵の発生状況を確認し、防除に活かす。	1			
防除	耕種的防除	発病株の処理（必）	根腐病等の発病株は見つけ次第、早期に抜き取ってほ場外に出し、適切に処分する。	1			
		連作の回避、輪作	センチュウの被害が多発する場合、他の作物を栽培する。	1			
		センチュウ対抗性植物の利用	ギニアグラスやマリーゴールド等の対抗性植物を作付け、ニンジンの播種4週間以上前に踏み込む。注1	2			
		耐病性品種の利用	病害の発生が問題となっている場合は耐病性品種を用いる。	1			
	生物的防除	生物農薬等の利用	適用のある害虫に対して、B T（バチルス・チューリンゲンシス）剤、ボーベリア・バシアーナ剤などの生物農薬を利用する。	2			
		化学的防除	農薬の使用全般（共通）（必）	十分な薬効が得られる範囲で最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する（薬剤散布後の残液が出ないように薬液を調整する）。	1		
			ローテーション防除	使用する農薬が特定の作用機作に偏らないように農薬の分類（IRAC、FRAC）を確認する。さらに、当該地域で薬剤抵抗性が確認されている農薬は使用しない。	1		
			薬剤の選択	天敵に影響の少ない薬剤を選択する。	1		
散布後の処理	散布器具、タンク等の洗浄を十分に行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し河川などに流入しないようにする。		1				
その他	作業日誌（必）	各農作業の実施日、病虫害・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のI P Mに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1				
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するI P M研修会や防除研修会等に参加する。また、研修会等の内容は、家族や作業員等へ周知し、情報共有する。	1				
				合計点数			
				評価結果			

*（必）と記述している管理項目については、必ず管理項目として設定しチェックする。

注1 ギニアグラス（なつかぜ）は3月から5月には種し（1-2kg/10a）、出穂前から初期に踏み込む（サツマイモネコブセンチュウ、キタネコブセンチュウ、キタネグサレセンチュウに効果ある）。マリーゴールド（アフリカン種、フレンチ種）は5~6月には種し（2-3kg/10a）、夏に踏み込む（キタネコブセンチュウ、キタネグサレセンチュウに効果あり、植栽後3作期まで効果が続く）。